

りょういき かいご  
<領域：介護>

ぎじゆつ  
コミュニケーション技術

もんだい つぎ りようしゃ ばめん かいごふくしよく おこな じ  
問題 29 次のうち、利用者とのコミュニケーション場面で、介護福祉職が行う自

こかいじ もくてき もっと てきせつ えら  
己開示の目的として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- じ こ せんざいいしき かつよう  
1 自己の潜在意識を活用するため
- りようしゃ しんらいかんけい ひょうか  
2 利用者との信頼関係を評価するため
- りようしゃ じぶんじしん じょうほう し  
3 利用者到自己自身の情報を知らせるため
- りようしゃ しんらいかんけい けいせい  
4 利用者との信頼関係を形成するため
- じ こ ふか ぶんせき きやつかんてき りかい  
5 自己を深く分析し、客観的に理解するため

問題 30 A 介護福祉職は、認知症(dementia)のある B さん(80 歳, 女性)と会話をしている。B さんは、「私は小さい頃毎年お祭りに行くことが楽しみでね」「なんだか最近ひざが痛いような気がしてね」「今から何をしようかしらね」と、次々に話している。A 介護福祉職は、B さんが混乱しないように、「B さん、子どもの頃の思いで体調のことをお話くださっているのですね」と返答した。次のうち、A 介護福祉職が行ったコミュニケーション技術として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 要約
- 2 承認
- 3 賞賛
- 4 共感
- 5 同意

問題 31 次の記述のうち、利用者の家族との関係づくりにおける介護福祉職の基本姿勢として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 お互いの緊張が解けるまでじっと待つ。
- 2 介護福祉職のペースで話を進める。
- 3 利用者の意向よりも家族の意向を優先する。
- 4 家族への連絡は最小限にする。
- 5 利用者支援で協働するパートナーとして接する。

問題 32 Aさん(80歳, 女性, 要介護3)は中途障害の全盲である。介護老人福祉施設に入所している。最近, 食堂の席の入れ替えがあった。Aさんは同じテーブルの利用者同士の会話を, 自分に向けて話しかけられていると思って, 応答した。しかし, 誰からも反応はなく, Aさんは下を向いてしまった。その様子を見たB介護福祉職は, Aさんの状況に対応するために, 同じテーブルの利用者にAさんの事情を話し, 協力を求めた。

次の記述のうち, B介護福祉職が同じテーブルの利用者に協力を依頼した内容として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんは疲れているので, 部屋で休むように伝えてほしい。
- 2 Aさんは不安なので, そっと手を握ってほしい。
- 3 Aさんにもわかるように, 話す相手の名前を呼んでから話しかけてほしい。
- 4 Aさんが混乱するので, 食堂での会話は控えてほしい。
- 5 Aさんは施設の予定がわからないので, これから食事だと教えてほしい。

問題 33 Aさん(72歳, 男性)は記憶障害があり, 介護施設に入居している。ある日, 介護福祉職にAさんが, 「あの, ちょっとお願いがあるんです。ええとね, 実は, お昼ご飯をほとんど残しちゃいました…。それでね…, あ, あれかな, 調理師さんはがっかりしたかな, 私はずっと食堂をやっていたんですよ。店はけっこう繁盛していたけど閉めることになってね。あ, ええと何の話だったかな…」と話しかけてきた。

次のうち, このときのAさんの発言を促すための介護福祉職の応答として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「Aさんは, お店を閉めたくなかったのですね」
- 2 「Aさんは, どんな料理が得意だったのですか」
- 3 「調理師さんのことは気にしなくていいですよ」
- 4 「どこかからだの具合が悪いのではないですか」
- 5 「何かお願いがあるのではありませんか」

問題 34 次の記述のうち, 客観的事実に該当するものとして, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 利用者Aは, 楽しかったはずだ。
- 2 利用者Aは, 朝食のパンを残した。
- 3 利用者Aは, 何か言いたそうだった。
- 4 利用者Aは, 不安だったと思う。
- 5 利用者Aは, 退屈そうにしていた。